

# 保健体育科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00066572">https://doi.org/10.24517/00066572</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 保健体育科

廣瀬 尋理

川口 寿恵

共同研究者 横山 剛士（金沢大学）

## 1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

昨年度、本校は「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成～STEAM教育を踏まえた教科等横断的プロジェクトの作成を目指して～」の研究主題の下に研究を進めてきた。保健体育科では本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力の中から、「よりよく生きようとする態度」「対話する力」「論理的思考」の育成をねらい、授業を考えた。今年度も研究主題は変わらないが、学習指導要領と照らし合わせて、保健体育科として本校の研究とどう関われるかを再考したい。

平成 29 年に告示された学習指導要領には、保健体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する」ために3つの資質・能力を育成することを目指すと示されている。まずはこの目標と3つの資質・能力の育成を意識しながら、どのように研究主題に迫れるかを考えていきたい。3つの資質・能力のうち、特に「生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度」を育てることは、社会的な諸課題である健康問題や高齢化社会への解決へもつながると考えている。また、健康の保持増進や体力向上をねらうことは、本校の学校教育目標の目指す生徒像でもある「心身ともにたくましい生徒」とも合致する。

本校保健体育科としては、健康や生涯スポーツを通じた豊かなスポーツライフを目指すという学習指導要領に示されている目標を目指しながら、そこに向かう過程で本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力を生徒に身に付けさせたいと考えている。また副題にもある教科横断的プロジェクトにも昨年以上に力を入れ、取り組んでいきたい。

## 2. 資質・能力の育成に当たって

### (1) 教科等として育成する資質・能力について

本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力のうち、本校保健体育科としては今年度も「より良く生きようとする態度」「対話する力」「論理的思考」を特に育成したいと考えている。

「より良く生きようとする態度」については、体育分野のダンスの授業では、自分の生き立ちである過去から現在、そして未来までのストーリーを考え、それを体で表現する授業を行う。また、保健分野では、性や生命の誕生についての知識を学ぶだけでなく、学んだ知識を自分の生き立ちに当てはめながら、振り返ったり、これからの将来の生き方について考えさせたりしたい。

「対話する力」「論理的思考」においては、体育分野の授業の中で作戦を立てる場面で、相手の考えを聞いたり、グループの意見をまとめる際に論理的思考を求められたりする。そのような活動の中で上記の資質・能力を育てていきたい。

## (2) 関連・連携を図った教科等について

保健体育科では2つの教科横断的なプロジェクトを考えた。

### 1年「体で表現する～命～」

近年、子どもたちへの様々な調査・回答の中で、日本は他国の子どもたちに比べて、自己存在感や自己有用感が非常に低いという結果が問題視されている。また、人の命をぞんざいな扱いをするような痛ましい事件や事故のニュースが後を絶たない。今年度は、保健分野の授業で性や生命の誕生について学び、次に学校保健と関連した助産師さんの講義を通して、命の尊さを身近に感じさせ、自分の生き立ちについて振り返らせた。また、活動の共通のテーマとして「命」をキーワードにしながら、自分自身の過去から現在までを分析した。そして未来を見据えることで、将来への希望を持てるように助言しつつ、体育分野で自分のストーリーをダンスで表現する活動を行わせた。自分の生き方を評価・分析する中で、「より良く生きようとする態度」を養うよう心掛けてきた。また、演じる際には自分のイメージするカテゴリーを事前に級友に伝えることで、級友の感想や助言を自分の思い描く世界観に付け加えることを心掛けるよう伝えた。様々な意見交換を行うことで、「対話する力」の育成にもつながると考え実践してきた。

### 2年「ゲーム分析をして、論理的な作戦を考えよう」

球技の授業で、試合などで作戦を考える場面を設け、生徒の思考力、判断力、表現力を養うことを意図した場面がある。生徒はそこで、様々な思考をめぐらし、作戦を立てるが、その作戦のほとんどは論理的なものではなく、これまでの経験や、感覚的なものを理由に作戦を立てることが多い。例えば、「Aくんが上手だからAくんをマークしよう」とか、「Bくんがたくさん点数をとっているからBくんをマークしよう」というものである。一見、上記の作戦は良いように思われるが、「Aくんの上手とは何をもって上手というのかが明らかではないし、Bくんだって例えば10点取るのに、10回ミスをしていた場合それをマークする必要があるのか」など、議論の余地はある。また、上記のような作戦だと効果の検証（ふりかえり）も曖昧になりがちであるという問題点もある。さらに、このような作戦の立て方だと、最後は一部の技能が優れた者が一方的に作戦を立てることも少なくはない。

そこに数学科の確率や期待値などの考え方を入れ、論理的に作戦を立てることを授業で行いたい。そうすることで上手な人は何がどれくらいできることが上手であるということも言えるし、もし10点とるのに、10回ミスする人と、5点しか取らないけれどミスは1回しかしない人では、どちらをマークするべきかということも論理的に考えることができる。さらに、このように多面的に分析する力があれば、技能が高い、低いに関係なく同等な立場で作戦を提案し、決定することが期待できる。このような活動の中で「対話する力」「論理的思考」の育成をねらい実践した。

昨年も同様の実践を行ったが課題としては、多くのチームはシュート確率や期待値だけを追って結果的に偏った作戦になっていたように感じた。バスケットボールは多くの点数を取ったチームが勝つことから、たとえ低い確率のシュートだとしても、リバウンドをとってシュート本数を増やすことを考えることも論理的な作戦といえる。そのような視点から今年度はシュート確率だけに拘らず、どうしたら勝つことができるのか、生徒に考えさせるよう実践をした。

## 3. 成果と課題

### (1) 1年「体で表現する～命～」

今回、本校が定める「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力」の中から、「より良く生きようとする態度（過去から現在そして未来の自分を見据えるなど）」に焦点を当て研究を進めた。「より良

く生きようとする態度」の育成に当たり,創作ダンスの授業では命というテーマを掲げ,保健分野で性や生命の誕生について学んだ。学んだ知識を自分の生い立ちに当てはめながら振り返ったり,これからの将来について考えさせたりすることができるよう試みた。

#### ①成果

##### ア. 学校保健と保健体育との連携

STEM 教育を踏まえた教科等横断的プロジェクトとして,学校保健と連携し助産師さんからの講話と体験活動を実施した。自他の生命の尊さを理解するために,生命の誕生や人を育む大切さを講話や体験を通して学んだ。横断的な学習をすることで,命というテーマについて,多角的に見つめることができ,生徒からは興味・関心を持ち取り組めたという感想が見られた。その他にも,幼い頃の自分を思い出し親への感謝を述べる生徒も見られた。



#### ～生徒の感想より～

今まで知らなかったことをたくさん学んだ。また,命は簡単に誕生するものではなく,両親の苦労があって誕生して今この自分がいるのだと感謝の気持ちが溢れた。命のことに軽々と悪い言葉を使う人がいることに少し疑問も持ったし,言うものではなく,一つ一つの命を尊重し合っていく世界ができればいいなと思った。

産まれる際にいろいろな問題が起きる。これは私も知っていたし,生まれてからも沢山の問題が起きます。それは分かっていましたが,この講話を聞いて一番理解したことは,新しい命を作ることすごく大変だということです。今,わたしは生きていますが,もしかしたらいなかったかもしれません。たくさんの方が,出産を迎えて祝福していることが納得できました。本当にすごい確率でここまで成長出来たことに感謝したいですし,これからも元気にいろいろな事に取り組みたいなと思いました。

助産師さんが命が誕生する確率を話していたので自分がここにいることがどんなにすごいことなのか気がつきました。講話を聞く前より命についての考え方が深まりました。

生命の誕生とは,とても神秘的なことであり,感動的なことなのだと思います。これからもこうやって生まれてきたじぶんの命を大切にしていこうと思ったし,妊婦さんも気遣えるようにしたい。

命は両親からもらう初めてのプレゼントなので,大切にしようと思います。命が誕生することは奇跡に近いそうなので,命を粗末にすることのないように生きていきたいです。これから大人に近づいていくにつれていろいろな事があると思うけど,自分と向き合って過ごしていこうと思っています。



## イ. 効果的な ICT の活用

効果的な ICT を活用することで、自分の動きを撮影し、仲間と対話を重ねながら知識や技能を深めていくことができた。また、お互いに助言し評価し合うことで「対話する力」の育成につながった。

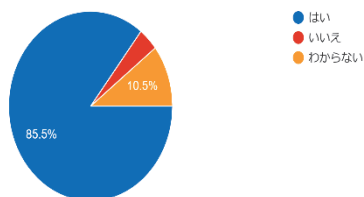


## ウ. イメージと基本動作のつながり

自分の人生に置き換えた「喜怒哀楽」を捉え、イメージ化することができ、その際に「走る・回る・見る」といった基本動作とつなげて表現することができた。発表者は演技する前にテーマを公表し、それぞれ自分のストーリーに合ったダンスを演じた。観ている生徒は、発表者のダンスの κατηγοリーを予想しながら参観した。例えば S 4 が S 1 の演技を観てテーマから予想して A（成長）だと思っていたが、動きを観ている中で E（つながり）に変化していた。発表者や観ている生徒の表現方法や受けとめ方は、千差万別であるため一致させることは難しいと思っていたが、一人一人が自分の感情や身体能力に適した表現が出来ていたのでカテゴリーが予想以上に一致していた。また、アンケートで「自分のストーリーをダンスで表現することができましたか」という質問に対して 85.5% の生徒が創作ダンスで自分の思い描くストーリーを表現できたと答えていた。

### 〈アンケートより〉

7. 自分のストーリーをダンスで表現することができましたか  
76 件の回答



### 〈ワークシートのカテゴリー〉

カテゴリー	
A	成長
B	感謝
C	未来
D	愛
E	つながり

### 〈生徒のワークシートより〉

発表者	「ダンステーマ」	ダンスカテゴリー	選択した理由	良い点・改善点
S 1	好きな事さがし	A→E	色々な事をやってみて自分が一番好きな事を探していたから。	何を表現しているのか分かりやすかった。
S 3	他の人との触れ合い	E	他の人との触れ合いを楽しんでいることが伝わったから	スローモーションで辛さや悲しみ、挫折を表現していた。

## エ. ストーリーの構成

自分の生き立ちを過去から現在そして未来までのストーリーの構成を「はじめ・なか・おわり」の三部構成に分けさせたことで、生徒は表現しやすくイメージ化しやすかったのではないかと思われた。特に、本校が定める **Society5.0** を主体的に生きるための資質・能力の育成として「より良く生きようとする態度」ということにつなげていけるように、「おわり」の内容に重点をおいて構成するように指導した。

また、アンケートでは、「ダンスを通して未来の自分を見据えることができましたか」という質問に対して、84.2%の生徒が創作ダンスで未来の自分を見据えることができたと答えていた。生徒の感想からも、「未来を見据えて生きていきたい」「命の大切にしたい」という記述が見られた。

### ～生徒の感想より～

自分は、今までの生き立ちを表現した。表現したいことを絞るのも大変だったし、考えるのも大変だった。けれど、こんな時があった、こんな事をした、のように考えると、構成も考えやすくて表現しやすかった。

自分の命や未来について考え、これからの人生について改めて考えることが出来ました。前まで、自分は何のために生きていて、何をするためにこの学校へ来たのか分からなくなっていました。でも、今回の授業でいろいろ考える事が出来ました。

創作ダンスで表そうとすることで、夢に向かう自分の気持ちを固められたし、自分の夢に向けて明るい気持ちを持てたので良かったです。また、本当に叶えたい夢なのかが不安だった将来の夢ですが、みんなの前で発表することで叶えたいと改めて思うことができました。

今回の創作ダンスを終えて、自分の人生を振り返り、未来に希望を持つことができました。

最初は創作ダンスで命を表現するなんて難しすぎて、凄く悩んでいました。(ダンスすらしたことないので)ですが、“こう”と決まったものなんて何一つ無いのだと思ってからは、ダンスのアイデアが次々にでてきました！友達にもアドバイスをもらって、相手にどのように見えるか工夫を重ねたおかげで、自分の中では満足のいくダンスができたと思います。何より、自分のダンスを考えたことで、改めて命の大切さを知ることができたので、良かったなと思いました。

ダンスを通してこれまでにあった事を改めて考えてみると、これから進んでいく道も自然と見据えることができた気がした。

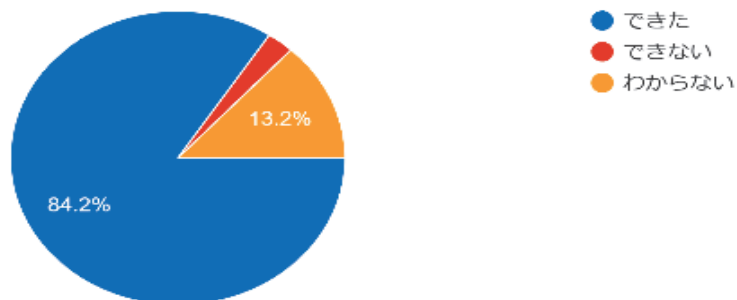
〈ダンス「おわり」で最後のポーズ〉



〈生徒のアンケートより〉

### 8. ダンスを通して未来の自分を見据えることができましたか

76件の回答



## ②課題

### ア. 決まりのない表現の難しさ

創作ダンスは決まった表現方法が無いいため、伝える側、受け取る側が必ずしも一致しない。そのため、個々の考えやイメージに合ったものを選択できるように、教師側で例を提示したり、テーマを絞ったりする必要があった。また、一定の決まりやルールを設定しておく必要があった。

### イ. コロナ禍での表現

コロナ禍でマスクを付けて活動していたので、表情を使った演技ができなかった。表情は人の気持ちを表すことができる一つの部位であるため、表情をつけて演技したり、相手の表情を読み取ったりすることができなかった。

### ウ. 教科等横断の難しさ

教科等横断的プロジェクトを進める場合には、学校行事や他教科の取り組みなどの全体計画の立案が必要である。また、どのように教科連携していくか先を見通して次年度以降の段階的な計画を早々に考えていく必要がある。


(2) 2年「ゲーム分析をして、論理的な作戦を考えよう」

2年生ではバスケットボールの授業でシュート確率やシュート本数から、論理的な作戦を立てられるように手立てを行った。具体的な手立てとして、ワークシート①を使って自チームのシュート確率やシュート本数を集計させ、ワークシート②を使って、自チームと相手チームのシュート確率とシュート本数を比較させた。ワークシート②ではその中で、自チームのシュート本数を増やすのか、相手チームのシュート本数を減らすのか、自チームのシュート確率を上げるのか、相手チームのシュート確率を下げるのかの4つの作戦を選ばせ、そのための具体的な作戦を考えさせた。

自分のチームを分析してみよう。

①チームのメンバーを1, 2, 3, 4, 5・・・と決めます  
 ①どこで誰がシュートを打ったかを下の図に書き込みます。  
 ②1の人がシュートを決めたら①、外したら1と書きます  
 ③試合が終わったら1P, 2P, 3Pシュートの確率を出してみましょう

班 (自チーム) 対 班 (相手チーム)




1P	2P	3P	合計
%	%	%	%

ワークシート①


試合を分析して作戦を立てよう！ 組 番 氏名

自チーム 班



1P	
2P	
3P	
合計	

相手チーム 班



1P	
2P	
3P	
合計	

①～④の中から1つ選んでそれを実行するための具体的な作戦を書こう

①自チームのシュート本数を増やす ②相手チームのシュート本数を減らす  
 ③自チームのシュート確率を上げる ④相手チームのシュート確率を下げる

ワークシート②

①成果

今回、作戦を立てる場面において、チームの話合いを音声データとして録音した。録音した音声データは以下の3回である。

- ・試合データがない状態での話合い
- ・自チームの試合データ（ワークシート①）がある状態での話合い
- ・自チームと相手チームの試合データ（ワークシート②）がある状態での話合い

1つの班に着目し、この3回の話合いの音声データを文字起こしものを下記に示した。



#### 試合データがない状態での話合い（要約）

- ・ドリブルで中に入っていくのが少なかった。(シュートが)外で打って終わっちゃうことが多かったかな。
- ・中で打った方が確率上がるのに中間(距離)から打って入ってなかったので中に入るのが良い。
- ・パスを回してシュートを打てばよい。
- ・シュートの本数は多いと思うけど、確率は低い気がする。
- ・近くからでも打った方がいい。
- ・外打ちになって確率が上がらない
- ・パスが回ってすぐ打つのではなく(ドリブルで入っていくように)チャレンジしよう。

#### 自チームの試合データ(ワークシート①)がある状態での話合い(要約)

- ・3Pシュートが入らないのはしょうがない。1Pも2Pも確率が高かったからよかったけど、シュート自体打てないからもったいない。1Pが一番入りやすいのに1Pは2/3入って良かったけど、分母が小さいからもっと積極的に打ったほうがいい。
- ・自分はゴールの左からよくシュートを打って、左からシュートを打つと入るから、もらうんだったら、こっち(左)かな。
- ・1Pシュートを打てる時もパスをしてしまった。もう少しシュートを打てば(1P)シュート本数が増える。
- ・みんな3Pをねらいがち。もっとドリブルで入っていった方がいい。
- ・シュートを打つ場所が偏っているんで、遠くからも打つべき。

#### 自チームと相手チームの試合データ(ワークシート②)がある状態での話合い

- ・相手チームの方が自分達よりシュートを打っている。その分点数も入っているからシュート本数を増やしたい。
- ・相手がパスを回している時にボールを持っている人だけ見てしまって、空いている人に打たれてしまったので、自分のマークマンを守る。
- ・自チームのシュートが中央に寄っているんで、相手チームからも守りやすくなっている。サイドからのシュートもねらう。
- ・相手チームは右からのシュートが多いから、こっち(右)を重点的に守る。
- ・2Pが2回しか打てなかった。相手は4本も打っているんで、積極的に打つ。
- ・相手のシュート本数を減らせれば、失点が少なくなる。
- ・相手の4番が1回しか打ってなくて、1番が5回も打っているんで、1番をマークした方がいい。
- ・シュート本数を減らすために、手をあげて、(シュート)チェックしよう。

この3回の話合いを比較すると、1回目の話合いではデータがない分、感覚的な表現になっていることが分かる。2回目の自チームがどこで、どれだけシュートを打ったというデータがある状態での話し合いでは、データをもとに、確率が高いとか、シュート本数が少ないとか、どこからシュートを打っているかということ踏まえて、根拠をもとに話をしていることが伺える。3回目の話し合いは自チームと相手チームがどこで、どれだけシュートを打ったというデータがある状態で話し合いでは、自チームと相手チームとのシュート本数の比較や相手チームがどこで誰が打っているかをもとに、どう守るかということまで、話し合われているのが分かる。このようにデータを取ることで論理的思考が促されたことが伺えた。また文字では分からないが、話し合いの場面ではデータがあることで、技能が低い子ども対等に話している様子が見られた。

また授業後の生徒の振り返りを見ると、次に授業後の生徒の振り返りを紹介する。「どの位置からのシュート本数が多いか分かった。それまでは感覚で喋っている感じだった」という記述からも、これまで感覚的に話している事もデータがあることで根拠をもって、話ができたと伺える。また次に「シュートを打つ場所についても詳しくできた」という記述からも、誰がどこでシュートを打ったのか、記録したことで、視覚的にどうすれば良いのか理解できたのではないかと考えられる。また次に「相手が～本打ってるねなどの比較するものができることで、自分達が次のゲームでどこを改善すべきかが分かった。話し合いの中では相手が～だから～すればいい」というように、データを使いながら根拠を持って話し合いがされたことが伺えた。さらに最後の記述では、自チームのデータと相手チームのデータから自チームが優れている点を読み取り、課題点のオフenseについてだけ話をしたという記述のように、データを上手に活用している様子が伺えた。

どの位置からのシュート本数が多いか、切り込んでいるのか分かった。  
それまでは感覚で喋っている感じだった。

リバウンドやあせらすらフというのかが新しくできた。  
シュートの確率を上げるためにあせらすらフというのを知ることができた。前回はちがって、シュートをラフ場所についてもわかってきた。

「相手が～本打ってるね。」などの比較するものからわかることで自分たちが次のゲームでどこを改善すべきかがすぐに分かった。話し合いの中では「相手が～だから～すればいい。」などもできて、より具体的に話すことができた。

相手のチームのシュート本数は自分たちより少ないことがわかったため、自分たちのディフェンスが良かったこと、リバウンドを防げたのではないかと考えることができた。話し合いの時にオフenseの話も優先してすることができた。  
また、相手の特徴を見ることもできたので、どういったディフェンスをすれば相手が嫌がるか考えることもできた。

## ②課題

今回、試合のデータを取って論理的思考と対話する力の育成をねらった。データがあることで、この2つの資質・能力はついたように感じたが、データを取ることやそれを集約する場面にかかなりの時間を費やした。その事で、全体としての運動量が確保できなかった事は否めない。保健体育科として、身に付けなくてはならない資質・能力と、本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力の育成を両立させるために今後検討が必要だと感じた。

1年 単元名「ダンス：創作ダンス」プロジェクト名「体で表現する～命～」

単元計画（12時間扱い）本時は11時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
1	1	<p>■思春期には、どのような体の変化が起こるか。【保健】</p> <p>①ホルモンの働きと思春期の体の特徴について理解する。</p> <p>②女子の生殖器の名称について理解し、初経や月経には個人差があることを理解する。</p>	<p>○性ホルモンの働きによって卵子が成熟して排卵が起こったり、月経が起こったりすることを理解している。【知】</p> <p>○学習に積極的に参加しようとしている。【態】</p>	
	2	<p>■新しい命を生み出せる体に成長することを理解しよう。【保健】</p> <p>①男子の生殖器の名称について理解し、精通が起こる時期には個人差があることを理解する。</p> <p>②お互いの性について理解し今後どのような態度を持つ必要があるか理解する。</p>	<p>○精子の生成と射精のしくみ、妊娠のしくみについて理解した内容をワークシートに書き出し理解している。【知】</p>	
	3	<p>■あなたの大切な生と性を考えよう。【学校保健】</p> <p>①生命の誕生について、科学的に理解し、かけがえのない命について考える。</p>	<p>○生命誕生の神秘的なしくみを科学的にとらえ、自他の生命の尊さなどを理解している。【知】</p>	
2	4	<p>■基本の動きを知ろう。（1）</p> <p>①「感情」の表現の仕方を確認する。</p>	<p>○表したい「感情」にふさわしいイメージや特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。【思】</p>	
	5	<p>■基本の動きを知ろう。（2）</p> <p>①「動き」の表現の仕方を確認する。</p>	<p>○表したい「動き」にふさわしいイメージや特徴をとらえた表現の仕方を見付けている。【思】</p>	
3	6	<p>■自己のストーリーに合った表現を考えよう。（1）</p> <p>①イメージを捉えた表現を考える。</p> <p>②はじめ・なか・おわりのひと流れの動きを考える。</p>	<p>○一番表現したい中心の場面をひと流れで表現できるように、はじめ・なか・おわりのまとまりで動きを見付けている。【思】</p>	
	7	<p>■自己のストーリーに合った表現を考えよう。（2）</p> <p>①イメージを捉えた表現を考える。</p>	<p>○表したいテーマにふさわしいイメージや、踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。【思】</p>	
	8	<p>■自己のストーリーに合った表現を考えよう。（3）</p> <p>①イメージを捉えた表現を考え、動きにつなげる。</p>	<p>↓</p>	



	時	学習内容・ねらい (■) 主な活動等 (丸数字)	評価規準 (○) 3 観点【 】 指導上の留意点 (・)	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
3	9	<p>■自己のストーリーに合った表現を考えよう。(4)</p> <p>①イメージを捉えた表現を考え、動きにつなげる。</p> <p>②ダンスに合わせた最初と最後のポーズを決め、ダンスを完成する。</p> <p>③成果や改善すべきポイントをお互いにアドバイスし合う。</p>	<p>○表したいテーマにふさわしいイメージや、踊りの特徴を捉えた表現の仕方ができる。【知】</p>	<p>「対話する力」</p> <p>「よりよく生きようとする態度」</p>
	10 ～ 11 本 時	<p>■自己のテーマとカテゴリーに合った表現をしよう。</p> <p>①創作ダンスを発表する。</p> <p>②「テーマ」から「カテゴリー」を予想しながら参観する。</p>	<p>○自己の生い立ちについてのストーリーを「はじめ・なか・おわり」にまとめて踊ることができる。【知】</p>	<p>「対話する力」</p> <p>「よりよく生きようとする態度」</p>
4	12	<p>■発表会の振り返りをしよう。</p> <p>①個々で自分のテーマに合ったダンスを伝えることができたか振り返る。</p> <p>②互いのダンスの表現について評価し合う。</p>	<p>○創作ダンスの振り返り、今後の生活に生かそうとしている。【態】</p>	<p>「対話する力」</p>

# 実践事例

教科名「保健体育科」・学年「1年」

授業者	川口 寿恵	授業クラス	1年1組～2組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
体で表現する～命～		学校保健「生命の誕生」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「対話する力」 「より良く生きようとする態度」		自己の生い立ちについてのストーリーを「はじめ・なか・おわり」にまとめて踊ることができる。 【知識・技能】	
STEAM教育の視点			
<p>今年度は「命」というテーマを掲げ生命について学び考えを深め表現させる活動を行ってきた。最初に、保健分野では性を通して人権を尊重しなければならない事について学んだ。次に、学校保健と連携し命の尊さについて学んだ。そのうえで、自己の生い立ちについて調べて、学んだ知識を自分の生い立ちに当てはめながら考えさせた。そのストーリーを創作ダンスという形で表現させる活動を行ってきた。本時は、創作ダンスで表現することで「より良く生きようとする態度」を育成し、次時の授業で参観者が個々のカテゴリーを予想し意見交換することで「対話する力」を身に付けさせたいと考えている。生徒一人ひとりの自己肯定感を高められるような支援をおこなっていき</p>			
本時の授業のねらい			
自己のストーリーにふさわしいイメージを捉えた表現になるように発表しよう。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 前時までの確認をする。 ※自己の創作したダンスの動きを確認する。			3
2. 本時の課題の確認をする。 「自己のストーリーのイメージを捉えてははじめ・なか・おわりにまとめて踊ろう」			3
3. 自己で練習する。			5
4. 創作ダンスを発表する。 ※発表を見ている生徒は、見る側の視点として発表者のテーマから予想されるカテゴリーとストーリーを予想する。			36
5. 振り返りとまとめを行う。			3

2年 単元名「球技・バスケットボール」プロジェクト名「ゲーム分析をして、論理的な作戦を考えよう」

単元計画（10時間扱い）本時は8時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
1	1	■3x3の学習の仕方を確認しよう。 ①授業の注意事項や安全面の確認をする。 ②既習事項（シュート、ハンドリング）の確認をする。	○学習に積極的に取り組もう としている。【態】	
2	2	■3x3を知ろう。 ①ルールの確認をする。 ②試しのゲームをする。	○試合の行い方やルールを理 解している。【知】	
	3	■空間を作り、走りこむ動きをしよう。 ①自チームで空間を作る動きの確認をする。 ②自チームで空間に走りこむ動きの確認をす る。	○ゴール前への侵入のための 空間作りや動きができる。 【知】	
3	4	■試合を通じて、ルールや審判法を確認しよ う。 ①ルールと審判法の確認をする。 ②クラス内の試合を行う。	○試合のルールや審判法を理 解している。【知】	
	5	■自チームのゲーム分析をして、自チームの特 徴を知ろう。 ①試合を行い、自チームのシュートエリア別確 率を確認し、振り返りをする。	○話し合い場面で合意を形成す るために適切な関わり方を見 付けている。【思】	「論理的思考」 「対話する力」
	6	■自チームの特徴を意識した攻撃をしよう。	○試合の中で安定したボール 操作ができる。【知】	
	7	①クラス内のリーグ戦を行う。		
	8	■試合を分析し、作戦を立てゲームに生かそ う。 ①試合後に自チームのシュートを確認し、その 後相手チームのシュートを確認し作戦を考 える。 ②再度同じチームと試合を行う。 ③振り返りをする。	・それぞれの役割が明確になる よう支援する。 ○自己チームや相手チームの 特徴を踏まえた作戦を選ん でいる。【思】	「論理的思考」 「対話する力」
9	■試合データから、考えた作戦で試合を楽しも う。 ①全チーム総当たりのリーグ戦を行う。 ②振り返りとまとめをする。	○マナーを守り、フェアプレイ を大切にしようとしている。 【態】		
10				

# 実践事例

教科名「保健体育」・学年「2年」

授業者	廣瀬 尋理	授業クラス	2年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
ゲームを分析して、論理的な作戦を考えよう		数学科「確率」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「論理的思考」 「対話する力」		自己チームや相手チームの特徴を踏まえた作戦を選んでいる。 【思考・判断・表現】	
STEAM教育の視点			
<p>3人制バスケットボールである3x3（スリーエックススリー）の試合を行った上で、作戦を立てる。記憶や感覚的なところに頼るのではなく、数学の確率、期待値などを使って、論理的に作戦を立てる。このことを通して、論理的思考や、作戦を立てる中で対話する力も養いたい。この活動を通して、球技の目まぐるしく起こる現象を数値化することで、論理的に作戦を立てることはもちろん、今後試合を見る上で、ゲームを見る視点が深まることもねらっている。</p>			
本時の授業のねらい			
試合を分析し、作戦を立ててゲームに生かそう。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 前時までの確認をする。 ※リーグ戦の試合を振り返る。			2
2. 本時の課題の確認をする。 試合を分析し、作戦を立てゲームに生かそう。			3
3. 前回の反省を生かし、各チームで練習をする。			5
4. 試合を行う。自チームのシュートを記録していく。			10
5. 自チームのシュート記録と相手チームのシュート記録から作戦を考える。 ※自チームのどんなことに着目したのか、相手チームのどんなことに着目したのか、作戦の根拠を明確にさせる。			10
6. 再度同じチームと試合を行う。			10
7. 振り返りとまとめを行う。			10